

歴史的景観の現代的再生 —生活と観光—

私たちの現代GPでは、6つのテーマのひとつに「歴史的景観の現代的再生」を掲げており、現代における歴史的景観の価値を、地域の生活環境資源として理解・評価し、町づくりへと展開させていく能力を身につけることを目標にしています。そのなかで、観光をツールとして、とくに力をいれようとしています。近年、新しい観光の考え方（ヘリテージツーリズム・エコツーリズム・アグリツーリズムなど）が、歴史的景観の現代的再生の鍵として重要視されてきている現状に対応しようとするものです。従来、こうした内容を盛り込んだ科目としては「設計演習Ⅳ」があり、その演習課題の中で「きたまち」をフィールドにした観光設計を課題にしてみましたⁱ。現代GPでは、こうした分野の授業を補強するために、「生活と観光」、「世界遺産と地域計画」を開講することにしました。「生活と観光」は本年度後期から、「世界遺産と地域計画」は、平成18年度からの開講となりますⁱⁱ。

「生活と観光」は阪南大学教授吉兼秀夫先生に講義をお願いしました。吉兼先生は、この分野の第一人者のおひとりです。講義の概要は以下の通りです。講義はワークショップを交えて行われ、学生たちは課題として「奈良女子大学ツアー」、「東大寺の中だけで7、8時間遊ぶ」を提案しました。

講義の目的

近年の観光動向から観光対象としての生活風景の意味を明らかにし、日常の生活空間、生活文化を大切にすることで観光対象としても魅力的な生活風景を提供しようとしているエコミュージアムの概念と実践例をはじめとする町ぐるみ観光について考える。

講義の内容

観光の歴史と近年の観光動向／観光文化とライフスタイル／観光立国宣言と観光まちづくり／観光まちづくりの事例／オルタナティブツーリズムと自律的観光／持続可能な観光地づくり（エコツーリズム）／生活文化を体験する観光（グリーンツーリズム）／環境文化を学ぶ観光（ヘリテージツーリズム）／地域をまるごと味わう生活ぶり観光のために／エコミュージアム

レポート課題で提案された内容については、別途紹介したいと考えています。

- i：本年度は、6ページで紹介した旧南都銀行手貝支店町家の活用案を練る課題に連動させて、きたまち一帯の基本的な観光コンセプトを提案し、そのなかに当該町家の活用を位置づける作業に取り組みました。
- ii：平成18年度では、この講義の開講のほか、「キャリアデザインゼミナール」や「設計演習Ⅳ」で、観光をテーマに取り込んだ課題を充実させていく予定です。



生活と観光の授業



大学から眺む記念館と東大寺